

Local Life

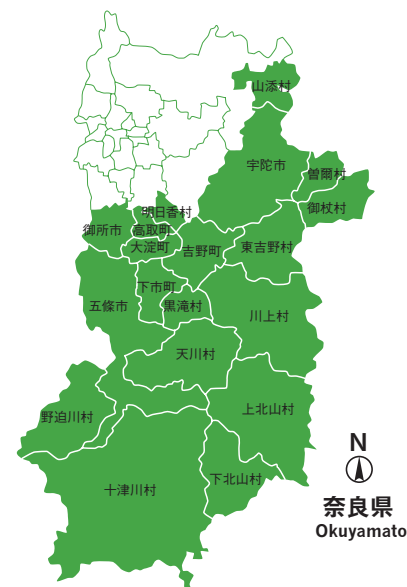
Vol. 5

in Nara Okuyamato

山林に生きる
奥大和の人々。

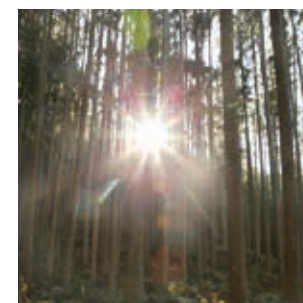
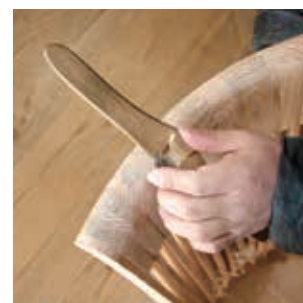
Local Life

Vol. 5



in Nara Okuyamato

どこまでも広がる広大な森、美しき木々。
その豊かな恵みとともに
生きる人たちがここにいる。
都会のリズムに疲れたら、彼らに会いに来るといい。
奈良・奥大和の森が、あなたを待っている。



発行元・問合せ：「奥大和移住・定住連携協議会(事務局:奈良県奥大和移住・交流推進室)」
☎0744-48-3016 〒奈良県橿原市常盤町605-5 Facebook「奥大和移住定住交流センター engawa」**Local Life**
in Nara Okuyamato

※このパンフレットは2017年12月に取材をおこない、2018年3月に発行したものです。情報は変更となる場合がございますので、最新の情報や詳細については各施設へお問合せください。

FORESTRY

They nurture a forest.

人の手が創る 五百年の森へ。

日本の林業を代表する吉野林業。その歴史は古く、今日まで実に500年以上もの間山の守り人たちの手により受け継がれてきた。世界に類をみない美しさを誇る吉野杉をはじめ、吉野の木材がどのようにして育まれ、磨かれ、人の手に渡るのか。森と木々と人の手が織りなす物語を通して、奈良・奥大和の「林業の今」をお伝えする。

吉野林業の未来を、 明日へ繋げる道づくり。

吉野林業の特徴のひとつが「密植」だ。通常の約3倍の密度で木を植えることで、成長を遅らせ年輪の幅を狭くし、木目がまっすぐで美しい吉野杉を育てる。苗を植え、草を刈り、こまめに枝を打つ。優秀な木を選別し間伐を行う。一本の木が成長するまで、気が遠くなる年月をかけ育てられた吉野杉が、最高級木材と呼ばれるのも頷けるだろう。しかし現在、吉野林業が置かれている環境は厳しい。需要の減少や値下がりによって採算が取れず、昔のような頻度で植林ができていないのが現状だ。間伐を行っても集材費用がかかるためそのまま放置されている例も多い。「集材用トラックが入れる作業道を整備することで、持続可能な林業にしてい

たい」と語るのは、清光林業で相談役を務めている岡橋さん。地域おこし協力隊員や林業志望の研修生などに作業道づくりの指導を行っている。岡橋さんが取り組む「大橋式作業道」は、高密度な路網を山林に巡らせることで、集材などの作業効率をあげ収益性を高めるもの。道づくりには山崩れなどのリスクもあるため、地図や航空写真で事前調査を行い、現地を歩いて何度も確認を行う。路線を読み誤れば作業中に工事を中止することもあるそう。そうして慎重に造られた道が、吉野の山林に広がっている。「林業収入が増え、林業に携わる人が増えるのが夢」と岡橋さん。今日も次世代のリーダーを育てるために吉野の森を奔走している。



from 吉野町

YOSHINO CHO



清光林業
1900haの所有林をもち、江戸時代から300年以上続く林業社。「大橋式作業道」の設置を中心とした循環型林業の普及に取り組んでいる。
☎0746-32-8515
〒奈良県吉野郡吉野町飯貝701

They nurture a forest.

山林に分け入り、曲がりくねった道を上る。ところどころ凍結した道を慎重に進むと30分。豊永林業で作業道づくりに従事する風谷さん、國米さん、鉢呂さんの仕事場に到着だ。山側の斜面、路肩、路面の下に丸太を組んで補強をし、土を盛って崩れない道を作る。酷暑の山中での作業は想像以上の重労働だけに、チームワークは欠かせない。一人が重機で丸太を配置し、一人がチェーンソーで長さを切り揃え、残りの二人が丸太に釘を打ち付けていく。作業が終われば次の区間へと移動を繰り返し、瞬間に補強区間が伸びていく。これぞまさにチームプレイ。道なき森に道を作る作業道づくりの最前線は、彼らの熱意と技術に支えられている。



△太い丸太が斜面の土砂崩れを防ぐ。打ち込む釘は太さ長さも特注サイズ

見事なチームワークで
切り開いていく、
奥深い山の作業道。



大木を吊り上げるためのワイヤーを設置。周囲との連携が重要



原木を目的に応じた長さにチェーンソーでカット（玉切り）

作業道がなく車が入れない場所からヘリコプターを使用して集材された木々。巨大な丸太が山を越えて運ばれてくる様子は圧巻だ。

先人たちに倣いながら、
山の流儀を身につける日々。



黒滝村森林組合

山を健全な状態で維持するため、定期的に枝打ちや間伐などの手入れを行う。他にも作業道の設置や獣害のフェンスづくりなど業務は多岐にわたる。

☎0747-62-2124
〒奈良県吉野郡黒滝村寺戸154

村の地域おこし協力隊員として、森林組合の業務に勤む住吉さん、久喜さん、辻本さん。早朝から山に入り、日が落ちるまで造林、間伐など山林の整備業務に励んでいる。「先輩方のやり方や動きをよく観察し、自分も同じようになれるよう色々なことに挑戦していきます」と辻本さん。若手三人で力を合わせながら、一人前の林業家を目指す日々だ。

- Q お仕事で嬉しいことや辛いと感じることはどんなことですか？
- A 体力的にきつい仕事ですが、季節の移り変わりや一日の中で自然の変化を感じながら仕事ができること、また自分の技術の向上が感じられるのは嬉しいですね（住吉さん）。
- A 山の手入れをする技術や知恵を教えてくださいませんか？
- A 山の手入れをする技術や知恵を教えてくださいませんか？

from 黒滝村

KUROTAKI MURA

黒滝村地域おこし協力隊



住吉寛俊さん 久喜 要さん 辻本奏美さん

それぞれ安芸高田市、品川区、香芝市から移住してきた住吉さん、久喜さん、辻本さん。みなさん移住して1年から1年半ほどになるが、朝5時起きで弁当を作る生活にだいぶ慣れてきたそう。山の流儀が体に馴染んできたようだ。



豊永林業

下市町、黒滝村、天川村などで作業道開設のほか、間伐や架線による集材、乾燥原木の注文販売や木工品の販売代理など幅広く事業を展開している。

☎0747-52-2026
〒奈良県吉野郡下市町下市135

▲特に言葉を交わすことなく、あうんの呼吸でどんどん作業が進んでいく

- Q 現在のお仕事について、こだわっていることや工夫を教えてください。
- A 下手に道を通すと台風で道がなくなることもあるので、どこに道を通すのかの判断が難しいです。道に水が流れると土が流れてしまうので、それを防止する為の止水板の設置は、間隔などとても気を使います（鉢呂さん）。
- Q お仕事で嬉しいことや辛いと感じることはどんなことですか？
- A 作業が自分の思い通りに進んだときですね。夏は暑くて虫が多く、冬はとても寒いので、厳しい自然環境の中での作業は大変です（國米さん）。
- Q 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。
- A 移住して2年、新天地なので、今まで出会ったことのない人に出会い、様々な体験をしていきたいですね（鉢呂さん）。
- Q 吉野の木のブランドに憧れて、吉野に移住してきました。美しい吉野杉をはじめとした木材をもっと世に周知していきたい。伐採の技術や道づくり、経営の方法などもしっかり勉強して、10年、20年と林業に挑んでいきたいです（國米さん）。

from 下市町

SHIMDACHI CHO



鉢呂梅太郎さん 風谷淳介さん 國米海彦さん

神戸市から移住した國米さんと枚方市から移住した鉢呂さん。リーダー風谷さんのもと、チームで作業に取り組んでいる。



They nurture a forest.

「林業を若い人の憧れに」 豊かな自然と共にある働き方。

国の天然記念物に指定されている鎧岳、兜岳が見下ろす曾爾村。曾爾高原をはじめとした美しい自然に囲まれたこの地に、林さんが移住したのは2016年の4月のことだ。曾爾村地域おこし協力隊に所属し、村の森林組合のサポート担当を行っている。仕事の内容は測量や伐採、草刈りから、事務作業、原木市場での配列作業など多岐にわたる。「ほぼ毎日山に入る生活ですね」と林さん。人の手が入った山林は、実は虫や動物たちにとっても暮らしやすい環境。そんな豊かな森の環境が10年後、100年後にも残るよう、責任をもって次の世代に受け渡していきたいと熱い想いを語ってくれた。



自立に向けて一歩一歩 自伐型林業に挑戦！

▲道を付ける場所を掘り返し、補強して埋める作業



▲丸太の壁で水の流れを変えるなどして、よりよい場所に道を設置するそう

下北山村地域おこし協力隊

奈良県の東南端にある山深い村で自伐型林業に挑戦。移住体験ツアーの中で一般者向けの林業体験を実施するなどの活動も行っている。

☎07468-6-0001(下北山村役場)
〒奈良県吉野郡下北山村大字寺垣内983



from 下北山村 SHIMOKITAYAMA MURA

下北山村地域おこし協力隊



羽曳野市から移住した小川さんと鎌倉市から移住した小野さん。二人とも山での暮らしや環境問題、林業に興味があった。

県内有数の森林地帯である下北山村で、林業に従事する地域おこし協力隊員の小川さんと小野さん。二人は先に紹介した清光林業の岡橋清隆さんに師事し、作業道づくりを学んだ。村が所有する山林までの道を設置するため、途中にある山の所有者と交渉を行い、力を合わせて少しずつ道を延ばしてきた。現在は麓から500mほどの位置まで進んだという。彼らを取り組むのは、山林所有者自らが伐採や集材を行う「自伐型林業」。全てを自分たちで行うのは大変だが、その分愛着も湧くそう。大好きな森で仕事ができる幸せを噛みしめている、二人で口を揃えていた。

- Q** 現在のお仕事について、こだわっていることや工夫を教えてください。
- A** 「山に入らせてもらう」という気持ち木という生き物を扱っているということをお忘れなように心がけています。それが安全な作業にも繋がってくると思っています。(小野さん)
- Q** 吉野杉や、吉野の木材に関しての印象を教えてください。
- A** 吉野杉の山林は、すごく手入れをされていて立ち木の状態や間伐具合も素晴らしいです。とてもいい木材だと思います。(小川さん)
- Q** 下北山村の林業は、吉野林業とは違いますが、(吉野のやり方を取り入れていきながら)「下北山村ならではのやり方」を見つけていきたいですね。(小野さん)
- Q** 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。
- A** 3年間という任期のあと、村に定住して森づくりをしていきたい。林業に限らず他の分野にもアンテナを張って、新たな可能性を探っていきたいと思っています。(小野さん)



森林組合の原木市場用に丸太を運搬。速くは鎧岳の雄姿が



▲丸太は転がりやすいため、配列するのは大変

from 曾爾村 SONI MURA



曾爾村地域おこし協力隊

林 宙(ひろし)さん

田舎暮らしは初めての林さん。山林で体を動かす毎日で、すっかり体調も回復。近頃は健康に気を使い自炊もはじめたそう。



曾爾村森林組合

造林や間伐などの山林業務のほか、定期的に開催している原木市を運営。木材を使用した産業振興や、新たな木材利用法の開発などにも取り組んでいる。

☎0745-94-2611
〒奈良県宇陀郡曾爾村今井97

SAWMILL

Process logs to make wooden materials.



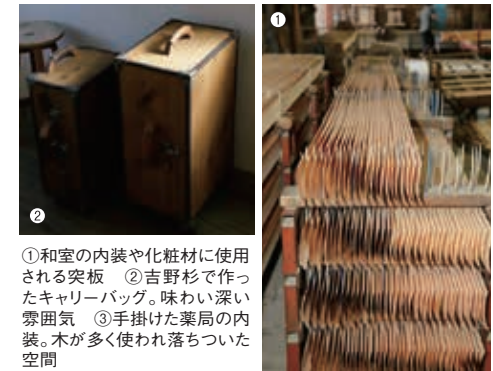
製材所の2階にあるギャラリー。使い込んだ木の風合いが素敵な家具が並ぶ

先祖代々の森を次世代に繋ぐ、「心豊かにする」ものづくり。

「売れるから、儲かるからでは続かない。好き、新しい、ワクワクがない」と語るのは、坪岡林業3代目社長を務める坪岡さん。故郷である吉野の町の風景が、年を追うごとに色あせていくことに心を痛めていたそう。先祖代々受け継がれてきた森と木々を、いかにして次の世代に渡していくのか。たどり着いたのは、暮らしや空間そのものを提案すること。手がけたある薬局では、癒しと心のケアをコンセプトに、吉野杉や松の温かみが溢れ、JANZが流れる癒しの空間に仕上げたそう。「生活者と向き合い、日々の暮らしが豊かになるものづくりを心掛けていきたい」と語る坪岡さんの視線は、まっすぐに未来を見据えている。



坪岡林業
「木のある佇まい」をコンセプトにブランドを立ち上げ、心が豊かになる家具や空間づくりをプロデュースしている。
☎0746-52-0118
〒奈良県吉野郡吉野町橋屋1



①和室の内装や化粧材に使用される突板 ②吉野杉で作ったキャリーバッグ。味わい深い雰囲気 ③手掛けた薬局の内装。木が多く使われ落ちついた空間



坪岡林業
坪岡常佳さん
出張で年に数回訪れる東京では、必ず新しくできた店を巡るという坪岡さん。心が動く経験を仕事に生かしているそうだ。

Q 現在のお仕事について、こだわっていることや工夫を教えてください。
A 先祖代々手間暇をかけて木を育ててきたからこそ、今僕たちが仕事をするのができています。そのことに感謝し、今の時代の価値に合うようなものを作って、色々な人に届けたいですね。

Q お仕事で嬉しいことや辛いと感じることとはどんなことですか？
A 嬉しいことはお客様に喜んでもらうこと。辛いことはありません。

Q 吉野杉や、吉野の素材についての印象を教えてください。
A 木目の詰まった美しいグラフィックは、先祖代々育ってきたから生み出されたもの。成長に長い年月がかかることを顧みず、敢えて密植することを選んだ先祖の思いを胸に、大事に使っていきたくです。

Q 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。
A 建築材の製造にも取り組むつつ、価値のある空間づくりをどんどん手掛けていきたいですね。いずれは、地域全体、町並みづくりにも広がっていきたくです。

原点を見つめ、新たに創出する「木のある暮らし」。



同じ吉野にある「美吉野醸造」で醸される木桶の酒。杉の香りが漂う上品な酒になる

酒樽や醤油樽作りに重宝され、吉野林業の発展を支えた吉野杉。需要が減少するなか「木のある暮らしの価値を再認識させたい」と様々なプロジェクトに携わっているのが、吉野中央木材の石橋さんだ。「吉野杉の木桶復活プロジェクト」では吉野杉の大桶を製造し、毎年木桶仕込みの酒を造っている。「生活の中で木に触れる場面を増やしたいですね」と語ってくれた。



▲プロジェクトの学習机は、2015年グッドデザイン賞特別賞を受賞

from 吉野町



吉野中央木材
石橋輝一さん
吉野町生まれで「Re:吉野と暮らす会」の会長を務める石橋さん。吉野への愛は誰よりも深い。

Q ほかに、どんなプロジェクトに携わっていますか？
A 「愛・学習机プロジェクト」です。吉野の中学校で入学前にワークショップを行い、吉野杉の学習机を子ども達と一緒に作るというものです。3年間、一番身近に触れる机だからこそ、町の誇りである吉野材と向き合っていて欲しい、という思いから始めました。

Q 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。
A 製材所として、様々な案件でスビーディーに生産できる体制を作りたい。先人から受け継いだ吉野材をさらに育み、次代へ繋いでいきたいです。



吉野中央木材
吉野杉と吉野松の製材所。住宅や店舗、社寺などの建築材や、大桶や木製タンクなどの容器の材料などを、すべてオーダーメイドで製造している。
☎0746-32-2181
〒奈良県吉野郡吉野町橋屋57

見て、触れて、過ごして感じる吉野材を使った家の魅力。

「余すところなく吉野材を使った家づくり」をテーマにした住宅プロジェクト「吉野STYLE」を主宰する阪口さん。「木の家の魅力を感じてほしい」と製材所内に2つのモデルハウスを建築した。柱に11種類もの木を使用して違いを見せたり、目に見えない場所にも吉野材を使用したりと工夫が凝らされている。「実際に触れてもらえば値打ちが伝わるはず」と阪口さん。次世代に「吉野材の家づくり」を伝えるべく、ここ吉野の地から魅力を発信している。

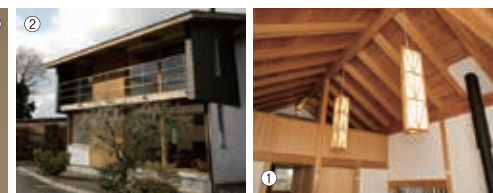
from 吉野町



阪口製材所
阪口勝行さん
専務の阪口さんは、思いを共にする工務店や建築家約20人からなる「ひとときネット」の中心的役割を担っている。

Q 現在のお仕事について、こだわっていることや工夫を教えてください。
A 天然乾燥の吉野材にこだわっています。木の色艶や香りが段違いによくなるので、手間やコストはかかりますが最低でも1年以上は乾燥させています。

Q 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。
A 近年はDIYの需要も増えています。家や木材のプロとして、お客さんと一緒に家づくりをしていく、育てていくスタイルを増やしていきたいですね。



①勾配天井の骨組みまで見えて開放的な空間 ②建物だけではなく庭への植栽も含めトータルで家づくりを提案 ③大きく取られた窓から入る自然な明り、漆喰の白い壁を美しく輝かす



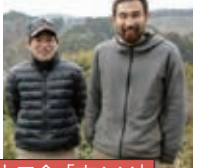
阪口製材所
エンドユーザーを見据えた空間づくりを行う創業70年の製材所。写真の「吉野サロン」でユーザーと家づくりの打合せなどを行う。
☎0120-558-153
〒奈良県吉野郡吉野町丹治113



WOOD WORK PLACE

Making woodworking product.

from 下市町 SHIMOICHI CHO



下市木工舎「市 ichi」
森岡誠人さん 森幸太郎さん
修業時代からの縁だという森岡さんと森さん。二人とも物静かで交わされる言葉は少ないが、工房を盛り上げていきたいという熱は共有しているそう。



▲実践で作品の仕上げを行う研修生。お手本を見せつつ丁寧に指導

▶三木市の鍛冶職人が作った特別な鉋が美しい吉野杉の魅力を引き出す



新たな仲間と共に
鉋かんで仕上げる
美しい吉野杉の家具。

小さい鉋で、微妙な曲面を仕上げる森岡さん。繊細な力加減が求められる



ギャラリーに展示されている作品。木目の直線と滑らかな曲線が美しい

リズムカルな鉋の音が響く。木目美しい椅子を仕上げるのは、2017年11月に移住してきたばかりの森岡さん。ここ下市木工舎「市 ichi」は、吉野杉を使った鉋仕上げの家具制作と、若手職人の育成を目的に設立された工房だ。開設時より代表を務めていた森さんの任期が終了し、その後任として森岡さんが就任した。元々、森さんと共に三木市の徳永家具工房で修業を積んだ森岡さん。「市 ichi」の設立時から何度もここを訪れていたため、違和感なくこの場所に馴染んだそう。「研修生たちが独立したとき困らないよう、実践ベースで指導しています」と森岡さん。森さんや四人の研修生と共に腕を磨く毎日だ。

Q お仕事で嬉しいことや辛いと感じることとはどんなことですか？
A お客様に笑顔で作品を受け取ってもらえる時ですね。辛いのは、思うように作業が進まず、時間だけが過ぎていくことです。

Q 吉野杉や、吉野の木材に関する印象を教えてください。
A 実際に吉野杉の木材に触って感じたのは、年輪の緻密さ。木目がまっすぐに通っているのは他にない特徴で、本当に美しいと思います。地元の方々が森を大切に、誇りに思っていることが、移住してきてからより感じられ、吉野杉に対する見解が変わりました。

Q 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。
A 研修生と共にしっかりと技術を磨いていきたいですね。吉野杉を使った家具を通して、日本だけでなく世界に吉野杉の良さを広めたい。町長をはじめ、町の人たちも応援してくれているので、下市町の活性化にも取り組んでいきたいですね。

下市木工舎「市 ichi」
吉野林業の拠点として栄えた下市町。林業と地域再興に取り組む、町の応援を受け、世界に向けて吉野杉の家具を発信している。
☎0747-68-9118
〒奈良県吉野郡下市町阿知賀61



目指すは「日本代表」
親友と共に創り出す
吉野杉の美しき椅子。



原産地の木材屋さんに直接行き、木目や節の有無などをチェックした確かな素材だけを使用

維鶴木工は、代表の藤川さんと親友の山本さんが共に立ち上げた家具工房。主に「吉野杉の無垢材」を使った椅子を製作している。こだわりは座り心地と強度、そして美しさ。「座面と背もたれの角度が重要なんです」と藤川さん。製品化まで何度も試作を繰り返して、実際に座ったり眺めたり、パツンごとに角度を変えたりしながら、よりよい座り心地や使い心地を追求している。塗装や仕上げも通常の何倍も時間をかけ、木の手触りと滑らかさを出していく。品質をどこまで追求する二人が目指しているのは「日本を代表する」家具づくり。「椅子と言えば維鶴と言われるようになりたい」と高い志を掲げている。



▲座って叩くカホンという太鼓。椅子以外にも様々なものを製作
▶3本足や幅の広い座面の椅子など、使用シーンに合わせて作られた椅子



木材を椅子の曲面に合わせて丁寧にカット

from 東吉野村 HIGASHIYOSHINO MURA



藤川さんと山本さんは中学校の同級生。それぞれ別の道で家具に携わる仕事をしながら、二人で始めた趣味の家具作りが現在に至っている。



維鶴木工
一般的には椅子に向かないと言われる吉野杉。吉野林業の発展やブランド推進に貢献したいとの思いから積極的に使用している。
☎0746-44-9540
〒奈良県吉野郡東吉野村瀧野507

Q 椅子や家具を作るにあたって工夫されていることを教えてください。
A 使い心地が第です。次に「永く使えること」も重視しています。木材としての吉野杉は何十年と美しに耐える強度があるので、その素材を生かし、長期で使える構造や設計を心がけています。

Q お仕事で嬉しいことや辛いと感じることとはどんなことですか？
A 大阪出身で奈良には知り合いがいなかったのですが、この仕事を通じて沢山の人の縁を頂きました。大好きな椅子作りに熱中できることにも感謝しています。辛いことは「生みの苦しみ」でしょうか。デザインを考えることは終わりのない熱考です。機能や強度を両立させるのは本当に難しく、まさに自分との闘いです。形にするまでのプロセスは体力も気力もすり減らしますね。

Q 吉野杉や、吉野の素材に関する印象を教えてください。
A 元々、吉野杉に「目ばれしてこそ」工房を立ち上げました。歴史や持続性のある吉野林業が背景にありますし、木の良さを実感できる良材です。

WOOD WORK PLACE

Making woodworking product.



①カフェの隣にある広い工房で腕を振るう村尾さん ②世界遺産のある十津川村、観光の合間に立ち寄る人も多い ③杉や桧の香りが心地よいカフェは、白い壁と高い天井が特徴

6次産業化で村の林業を再生 「96%が森林」十津川村での挑戦。

面積のほとんどを森林が占める秘境・十津川村。山崎集落にあるKIRIDASは、十津川産の杉や桧を使った家具を製作する工房とギャラリー、カフェが一つになった施設だ。内装には十津川産の木材が使われ、美しい木目が生かされた家具が配されている。仲間と施設を運営するのは木工職人の村尾さん。森林の育成整備から加工流通までを一貫する6次産業化で林業再生を目指す村の取り組みに共感し、2017年4月に移住を果たした。「森林組合やプロジェクトの人たちと一緒に、新しいスタイルを提案していきたい」と意気込みを語ってくれた。

KIRIDAS

もともと製材所だった場所をリノベーション。カフェや手作りの木工品の販売のほか、注文生産の家具販売も。

☎050-5005-4007
〒奈良県吉野郡十津川村山崎278



「木を伐り出す」がお店の名前の由来。山への畏敬の念や山で働く人への感謝が込められているそう



- Q 現在携わっている仕事に関して、詳しく教えてください。
- A 主にオーダー家具や「十津川リビング」の家具製作を行っています。「十津川リビング」は、村のプロジェクトのひとつである「家具プロジェクト」で作っているブランドで、デザイナーの岩倉榮利さんがデザインしたシリーズです。小口面を上に向けてたテーパーなど十津川産の杉や桧を贅沢に使っています。その他、KIRIDASの運営にも携わっています。
- Q 現在のお仕事について、こだわっていることや工夫を教えてください。
- A いいものを丁寧に造ることです。十津川の杉や桧の魅力を引き出す、カッコいいものを作っています。
- Q 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。
- A 現在は、十津川村の地域おこし協力隊員としてこちらにいますので、任期終了後は独立して頑張っていきたいですね。



KIRIDAS
村尾守さん
村尾陽子さん

大阪でアウトドア製品の会社に勤めたのち、県立高等技術専門校家具工芸コースで腕を磨いた村尾さん。現在カフェを担当する奥様と共に日々の仕事に取り組んでいる。



「吉野杉がすでに人の手による作品」と平井さん。さらに平井さんの技が加わり、見事な作品が生まれる



studio Jig
使用する塗料やファブリックにもこだわり、独自の「Free form Lamination」技術で木工家具の概念を超える家具を製作している。
☎070-2837-5298
〒奈良県吉野郡川上村大滝139

既成概念を突破して生み出す、水の流れるように自由な曲面。

吉野杉のまっすぐで緻密な木目が、メビウスの輪のように美しいカーブを描く。明らかに木材なのに、水の流れるような動きを感じさせる不思議な形の家具。作り出すのはstudio Jigの平井さんだ。吉野杉の薄い板を何枚も重ねて圧着し、強度を保ったまま自在に成形する技術を習得した平井さんが、今までにない家具を生み出すことをコンセプトにstudio Jigを開業したのは2017年のこと。「吉野杉の素材の良さと、自分が培ってきた技の双方が活きるデザインを目指したい」と平井さん。生み出した独自の技と美しい吉野杉の出会いが、世界の家具デザインを席巻する日も近い。



▲重ねた板を時間をかけて曲げ成形し、鈎で美しく仕上げている

▶完成した座椅子。国際家具デザインフェア旭川2017でブロンズスリーブ賞を受賞



- Q デザインで心がけられていることは何ですか？
- A 木材らしくないデザインを目指しつつ、木材らしい質感や温もりを大切にしています。
- Q お仕事で嬉しいことや辛いと感じることはどんなことですか？
- A 自分の頭の中にあっただesignが、現実として目の前に現れたとき、製作の過程で発生した問題を乗り越え、自分自身が成長できたとき、感動したときは嬉しいですね。辛いことは、ただ「造る」というだけではダメなこと。作品は「イコール商品」なので、シビアな現実もしっかり見据えていきたいですね。
- Q 夢や、将来の展望などがあれば教えてください。
- A まずはしっかりと自分の活動によって生活をしていくのが第一の目標です。将来的には、自分の技を継承しつつ、自分にはできないことを探り、創作を続けていきたいですね。そのことが、吉野杉や吉野桧のPRや吉野林業の振興、発展につながっていくのは最高です。



studio Jig
平井健太さん
静岡県出身の平井さん。飛騨高山やアイルランドで木工の修業を積む。地域おこし協力隊の制度を利用して、川上村へ移住した。

TREE ARTIST

The art of wood that heals the mind.

▼現在、安本さんの人生を変えた「持国天」の像を制作中



▲個性的な木は忿怒像、大人しく謙虚な木は観音像等に使用

心を込めて彫り上げる
「人の心癒す」佛の姿。

雑音のない環境で仕事に取り組みたいと、佛師の安本さんが東吉野村へ移住したのは2017年のこと。朝は8時頃から日が落ちるまで、静かな工房に木を削る音が響く。安本さんが佛師を志したのは大学生の頃。就職活動に奔走する級友たちを横目に、悶々と進路に悩む日々。ふらりと訪れた東大寺で見た「持国天（じこくてん）」に激しく心を打たれた。絶対的な安心感に包まれ、生きる勇気がふつと湧き「自分もこんな像を彫りたい」と激しい修業の道へと飛び込んだ。「千三百年以上受け継がれてきた折りと癒しの力を、今を生きる人へ届けたい」と安本さん。一刀一刀に心を込め、今日も真摯に佛像と向かい合う。

from 東吉野村

HIGASHIYOSHINO MURA



安本佛彫刻工房

安本篤人さん

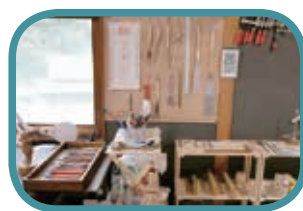
京都や富山での修業を経て2014年に独立。その後は全国を旅して寺社を巡り、何百という佛像を目に焼き付けた。

- Q 東吉野村への移住のきっかけや、決めた手になったことを教えてください。
- A 友人に誘われて、村にある「オフィスキャノン東吉野」を訪れたのが縁です。川がきれいで自然が豊かという場所だと思いました。その後子供が生まれ「環境がいいところで育てたい」と考えたのも大きいです。
- Q 佛像に使用する木はどんな木ですか？また、吉野材にはどんな印象を持っていますか？
- A 主に木曽松、日高桂、九州の楠など、国産の天然木を使用しています。吉野松は最近使いだしました。独特のピンク色がポップな印象で綺麗です。木曽松よりは硬くて目が荒いですが、仕上げるといい光沢が出ます。東吉野村にある四郷地区の樹齢2〜300年の一級品を使っています。

安本佛彫刻工房

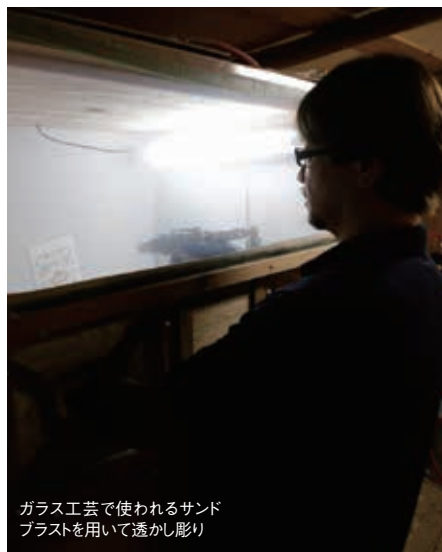
見晴らしのよい高台にある工房兼自宅は、半年をかけた古民家をリフォーム。2018年には個展を開催する予定だ。

☎090-7878-7164
〒奈良県吉野郡東吉野村三尾825-2



▲一心不乱に彫る安本さん。20cm程の像で約1ヵ月半の制作時間

▶手のひらにすっぽりと収まるお守り「番合佛（こうごうぶつ）」



ガラス工芸で使われるサンドブラストを用いて透かし彫り



▲硬い年輪部分の冬目を残し、柔らかい夏目を彫り抜いて表現されている。柔らかい優しい光が溢れだす

集落に溶け込み、
自然と一体になって作る
吉野杉の優しい灯り。

杉材を水に浸し熱を加えてゆっくり曲げていく。滑らかな曲面が生み出される繊細な作業

from 大淀町

OYODO CHO



杉灯りつくりびと
中瀬悦二さん

バイクのメカニックや広告デザインなどに携わっていた中瀬さん。ありのままに繕わない現在の暮らしを大いに楽しんでいるそう。

大淀町の持尾集落の一角。水道も通らぬこの場所、吉野杉を使った照明を創作しているのは灯りアーティストの中瀬さん。吉野杉の無垢材のうち、貴重な柂目板を使用した中瀬さんの作品は、まっすぐで美しい年輪と独自の手法で生み出す滑らかな曲面、そして年輪の硬い部分を残した透かし彫りの表現が特徴だ。「環境に優しいものを」と灯されるLEDの光が、透かし彫りを通してどこまでも優しく周囲を照らします。近頃は展示会や個展への露出が増えたという中瀬さん。「いざれは海外ツアーに挑みたいですね」と高い目標をかかげている。

- Q 集落に移住してきたのはいつですか？また理由はなんですか？
- A 大阪で約20年暮らし、移住したのは2013年です。緑が豊かな場所での創作活動に打ち込みたいと考えて移住しました。
- Q 周辺は木や森ばかりですが、「ここでの暮らしはいいですか？」
- A 水道やガスが通っていないので夏はアトリエの裏の川で水浴びですね。アトリエからもう少し山を登ったところに何軒か人が住んでいます。現在ではすっかり仲良くなつて、みなさんの買い物などで足がわりに車を走らせたり、飲み水や食事やお風呂をお世話になったりしています。
- Q 創作活動を始めたきっかけはどんなことですか？
- A 吉野杉透かし彫りと名付け、約40年前から始めた父親の影響は大きいですね。すぐに手仕事の魅力にすっかりハマりました。
- Q 現在のお仕事について、こだわっていることや工夫を教えてください。
- A 杉の香り、手触りなど「五感で感じる」杉灯りは自らデザインし、市販部品や外注も使いません。人にも環境にも優しいように、接着剤や塗料も有機溶剤や乾燥剤の入っていないものを使っています。

Ch Style (吉野杉透かし彫り)

吉野杉の年輪の美しさと、滑らかな曲面を生かした木工とサンドブラストを使った透かし彫りで、オリジナリティの高い「杉灯り」の作品を制作。

☎090-3997-0722
〒奈良県吉野郡大淀町持尾305

